

信楽高原鉄道 運行再開記念ヘッドマークをデザイン

信楽高校 3年 坂野 礼佳さん (写真左)

3年 今掛 真心さん (写真右)



信楽高原鉄道 (SKR) の運行再開を記念した「一番列車」には、地元の信楽高校生が描いたヘッドマークが掲げられました。多くの生徒が通学で乗車する同校にSKRがデザインを依頼し、寄せられた49点の作品の中から選ばれた2枚が、それぞれ車両の前後を飾っています。デザインを手がけた坂野さんと今掛さんにお話を伺いました。

ヘッドマークのデザインに込めた思いは？

坂野:途切れた線路が再びつながって喜び子どもや生徒、お年寄り、駅員さんたちの輪の中に、SKRの車両を描き、SKRが地域に愛されているということ表現しました。

今掛:初めて信楽を訪れた時、あちこちで目にしたタヌキの置物が印象的で、それ以来タヌキが大好きになりました。その頃のことを思い出しながら、運行再開を喜びタヌキを描きました。

SKRでの通学の思い出は？

坂野:中学校時代から通学に利用してきました。車内で毎日みんなと出会えるし、テスト勉強もします。思い出がたくさん詰まった場所です。色んな人たちが運行再開に協力してくださって、本当に感謝しています。

今掛:車窓からの景色を眺めたり、写真に撮ることが好きなので、高校在学中にまたSKRに乗れるようになって嬉しいです。いっぱい写真を撮ってアルバムを作りたいと思います。

SKRを思うたくさんの気持ちがつながった運行再開。その確かな証として、2人がデザインしたヘッドマークは当面的間、車両に飾られています。

▼先頭車両



▼後部車両



寒さを吹き飛ばす熱戦

第1回甲賀市長杯親善ゲートボール大会

第1回甲賀市長杯親善ゲートボール大会が12月5日、甲南グラウンドで開催されました。

市制施行と市体育協会10周年を機に、市ゲートボール連盟が全市規模の大会として初めて企画したもので、市内各地から70チーム約400人が参加。細かなチーム戦略が求められる競技とあって、ボールを送る場所や狙い球などの指示が会場に飛び交いました。

寒さを吹き飛ばすほどの熱戦の結果、貴生川地区の「ブレンド同好会」が初の市長杯を手に入れました。



▲指示が飛び交い熱を帯びる試合

本格的な鹿肉料理に挑戦

ゆうゆう甲賀クラブ土山支部連合会

ゆうゆう甲賀クラブ土山支部連合会の会員20人が12月6日、鹿肉の料理づくりに挑戦しました。

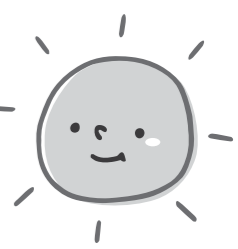
獣害対策と地域おこしを兼ねて、鹿肉を使ったカレーやコロッケなどの料理研究に取り組む山内自治振興会のメンバーから指導を受け、およそ3時間をかけてスープや香草焼き、鹿肉そぼろ飯など、プロ顔負けの6品のコース料理が完成しました。

参加者らは初めて食べる鹿肉料理を味わいながら、獣害や地域活性化などについても意見を交わしていました。



▲鹿肉料理を皿に盛る参加者

元気なまちかど



地域づくりへ行動を

シンポ「自立・自活したまちづくり」

地域づくりを考えるシンポジウム「自立・自活したまちづくり」が11月30日、市内で開かれ、全国から地域おこしに携わる約80人が参加しました。

石川県羽咋市の職員で、地域ブランド化に取り組み高野誠鮮さんが戦略の一端を紹介。同市御子原地区で採れた米をローマ法王に献上して海外から高い注目を浴び、「御子原米」を高級ブランドに育てた事例などをもとに、「失敗を恐れず、成功するまで行動を」と呼びかけました。

続くグループ討議では、参加者が日頃の活動紹介や意見交換を行い、地域づくりの議論を深める機会となりました。



▲活発な議論が交わされたグループ討議

手作りの餅は格別の味

みなくち子どもの森 こいもクラブ

みなくち子どもの森で自然体験活動に取り組む「こいもクラブ」の子どもたち23人が、自分たちの育てたモチ米で餅つきを行いました。

5月に苗を植え、10月下旬に収穫。脱穀や粳摺りまで手作業で丹精込めたモチ米が蒸され、石臼に入られると、待ち構えていた子どもたちが順番に「べったんべったん」ときねを振り下ろし、弾力のある餅に仕上げました。

黄粉や砂糖醤油、自分たちで作った大根おろしに餅を絡め、子どもたちは大きな口をあけて頬張っていました。



▲石臼に残った餅をつまみ食い

「努力することの大切さ」を学ぶ

水口中学校親子ひびきあい活動

元プロ野球・阪神タイガースの松山進次郎さんを講師に招き、水口中学校の親子活動が12月2日、あいこが市民ホールで開かれました。

一流を極めた人生の先輩から体験談を聞くことで、卒業を控えた3年生とその保護者が今後の進路への思いや考えを共有する機会に企画されたものです。

華やかなプロ生活の陰で、幾多の困難を乗り越えてきた経験から、「努力することの大切さ」を熱く語る松山さんの言葉に、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。



▲生徒からの質問に答える松山さん